

記載上の注意事項

1. 履歴書（様式1-1）

- ① **学歴**は、大学入学以降の学歴、卒後臨床研修歴、研究生などの研究歴を記入して下さい。
職歴には、給与関係を除いて下さい。なお、履歴の空白期間には、説明（自主研修等）をつけて下さい。研究歴及び教育歴には、所属講座・部門等まで記入して下さい。
- ② **免許及び資格**には、医師免許、歯科医師免許、認定医、専門医、指導医、標榜医等を記入して下さい。
- ③ **学位**には、授与された大学名も記入して下さい。また、大学院の課程修了による学位は大学名の後にAと、論文提出による学位はBと記入して下さい。
- ④ **学会活動等**は、所属の学会名、役職名等を記載して下さい。
- ⑤ **賞**には、学術活動による表彰を記入して下さい。
- ⑥ **年の表示**については、西暦で記入して下さい。（以下共通）

2. 業績目録（様式1-2）

- ① **A～G**の各項について記入して下さい。（目録の1枚目から順に頁を付して下さい。）
- ② 目録**A～D**には、既に刊行されたものと、受理（accept）されて公刊予定となったもの（印刷中、in press）のみを記入して下さい。
（注1）記載は、欧文・和文に分けて、それぞれ発行年順に記入して下さい。
（注2）記載方法は、記載例を参照して下さい。本人には、アンダーラインを付して下さい。
（注3）共著者名は、業績に記載してある順に全員記入して下さい。
（注4）発表論文のインパクトファクター（IF、最新の値）を記入してください。
A. 原著とは、著者の研究成果をまとめたもので、referee journalに記載された論文を指します。（注）学位論文に相当する原著の番号を○印で囲って下さい。
B. 症例・治験・手技の項には、A、C、Dのいずれにも属さないものを記載して下さい。
C. 総説には、展望・講座・解説等が含まれます。
D. 著書には、翻訳が含まれますが、その場合は（翻訳）と記して下さい。
- ③ **E. 学会発表**については、**a. 特別講演・シンポジウム**等、**b. 一般発表**（最近5年間の発表総数と主要なもの10題以内）をそれぞれ欧文・和文に分けて年代順に記入して下さい。なお、講演要旨或いは抄録の掲載記録は、行末に括弧を付けて記入して下さい。
- ④ **F. 研究助成金取得状況**については、文部科学省（文部省）・厚生労働省（厚生省）・その他（共同研究費、受託研究費（治験含む）財団等の助成金等）に分け、代表研究者か分担研究者の別、及び助成額（直接経費）を明記して下さい。分担研究者の場合は総額と配分額（直接経費）を明記して下さい。
- ⑤ **G. H-Index**は、Google scholarによるもの（すべての期間、および2015以降）を明記して下さい。

3. 自己紹介

経歴と研究、および診療についての自己紹介をそれぞれ300字程度で記載してください。

(自己紹介の例)

私は、一貫して小児アレルギーの診療と研究に携わってきた。これまでにアトピー性皮膚炎とビタミンD欠乏との関連をコホート研究と基礎研究とで明らかにした。2017年よりビタミンDの発症予防効果を前向きに検証するための臨床試験を、米国〇〇大学小児センターとの共同研究として実施している。

留学から帰国して以来10年にわたり、〇〇大学外来で毎月平均〇名、関連施設で毎月平均〇名の外来診療を担当している。大学病院では、アレルギーグループのリーダーとして〇名のスタッフ・大学院生とともに、入院患者の検査・治療および学生教指導に当たっている。これまでに、〇名の大学院生を直接指導した。

4. 研究実績（様式任意）

現在までの研究の実績について、その経過と成果等を1,000字程度で業績目録の論文リストとは別に記載して下さい。

5. 診療実績（様式任意）

現在までの診療の実績について、1,000字程度で具体的に記載して下さい。

6. 教育実績（様式任意）

教育に関する実績(研修歴・ファカルティディベロップメント(FD)等の受講・資格、主な講義や実習内容、教務・厚生補導等に関する委員歴、その他教育に関する経験)を1,000字程度で記載して下さい。期間(長さ)やコマ数なども記載して下さい。

7. 応募理由書（様式任意）

- ① 研究、教育(卒後教育を含む)、診療について
今後の抱負を2,000字程度で記載して下さい。
- ② 教授として研究に関するコンプライアンスの方針と考えについて
400字程度で記載して下さい。

- (注) 1. 上記書類は、学内に公開されることがあります。
2. 上記書類は、原則としてA4版とし、Word等を用いて作成して下さい。
3. 応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。(責任をもって廃棄いたします。)
4. 必要に応じて、追加の情報・作業をお願いすることがあります。ご了承ください。

※CD-Rの作成について

- (1) 上記の1. 履歴書, 2. 業績目録, 3. 自己紹介, 4. 研究実績, 5. 診療実績, 6. 教育実績, 7. 応募理由書を通しページとしたMS Wordファイル及びPDFファイル [ファイル名は「氏名(〇〇〇〇)応募書類. …」] をコピーして下さい。
- (2) 主要論文10編以内のPDFファイルには, 「氏名(〇〇〇〇)主要論文1.pdf」「氏名(〇〇〇〇)主要論文2.pdf」「氏名(〇〇〇〇)主要論文3.pdf」…の様に通し番号を振りつけて下さい。
- (3) 主要論文の要約のファイル名は「氏名(〇〇〇〇)要約.pdf」として下さい。
- (4) 推薦状のファイル名は「氏名(〇〇〇〇)推薦状.pdf」として下さい。

業 績 目 録

A. 原著

- ①. Chiba T. Electron microscope observations on the fusion of chick myoblasts in vitro. J Cell Biol. 1995;48:128-42. 【IF= 】
2. Inohana J, Nishichiba S, Chiba T. Acetylcholine sensitivity of skeletal muscle cells differentiated in vitro from chick embryo. Brain Res. 2002;25:216-9. 【IF= 】
3. Nishichiba S, Matsudo S, Chiba T. Isolation and culture of motoneurons from embryonic chicken spinal cords. Proc Natl Acad Sci USA. 2006;76:3537-41. 【IF= 】
4. Chiba H, Chiba T, Bader D. Molecular cloning and expression of chicken cardiac troponin T. Cir Res. 2011;65:1246-51. 【IF= 】
5. Hastings KEM, Koppe RI, Marmor E, Chiba T, Inohana J. Structure and developmental expression of troponin I isoforms. J Biol Chem. in press 【IF= 】
6. 亥鼻次郎, 西千葉三郎, 千葉太郎, 松戸四郎 食道癌手術視野からみた気管支動脈の走行に対する解剖学的検討. 日外会誌 2005;94:456-65.
7. 亥鼻次郎, 千葉太郎, 西千葉三郎 右開胸食道癌根治手術時における上縦隔リンパ節の郭清可能範囲に関する研究. 日消外会誌 2012;26:2134-9. 【IF= 】
8. 亥鼻次郎, 西千葉三郎, 千葉太郎, 松戸四郎 下肢刺激 SEP の随意運動による影響. 臨床脳波. 印刷中

B. 症例・治験・手技

1. Inohana J, Nishichiba S, Chiba T, Matsudo S. Malignant exophthalmos associated with multiple myeloma. Inter Med. 2010;32:875-8. 【IF= 】
2. Chiba T, Chiba H. A case of renovascular hypertension: segmental hypoperfusion resulting from single vessel stenosis in the presence of bilateral duplex renal arteries. Jpn Cir J. 2014;56:620-2. 【IF= 】
3. 亥鼻次郎, 千葉太郎, 西千葉三郎 上皮小体の癌と腺腫の異時性重複と思われる 1 症例. 耳頭頸 2012;65:647-52.

C. 総説

1. Chiba T. Brain damage due to surgical injury to the cerebral vein. Clin Rev Neurosurg. 2011;3:191-5. 【IF= 】
2. 千葉太郎 FACS を用いた細胞間接触と Ca²⁺ シグナルの検索. 実験医学 2012;11:93-8.

D. 著書

1. Inohana J, Chiba T, Nishichiba S. mRNA turnover in *Saccharomyces cerevisiae*. In: Control of Messenger RNA Stability ed. Brawerman G, Belasco J, San Diego, CA: Academic Press Inc. 2010:291-327.
2. Inohana J, Chiba T, Nishichiba S. The ribosome and its synthesis. In: The Molecular and Cellular Biology of the Yeast *Saccharomyces*: Genome Dynamics, Protein Synthesis and Energetics. vol.1, ed. Broach JR, Pringle JR, Jones EW, Cold Spring Harbor, NY: Cold Spring Harbor Laboratory Press, 2012:587-626.
3. 千葉太郎 心肺運動負荷テスト. 運動と呼吸, 亥鼻次郎編, 南江堂, 東京, 2011:1-10.
4. 西千葉三郎, 千葉太郎 レセプター遺伝子の発現と合成, レセプター: 基礎と臨床, 松戸四郎編, 朝倉書店, 東京, 2012:92-105.

E. 学会発表

a. 特別講演・シンポジウム

1. Chiba T, Inohana J, Nishichiba S. Fetal cells in maternal blood: frequencies measured by the polymerase chain reaction (PCR) and in situ hybridization. 8th International Congress of Human Genetics Symposium. 2011 (Am.J.Hum.Genet.Suppl. 2011;49:210-1.)
2. 千葉太郎 XYZ 症候群と精神障害. 第 100 回日本解剖学会総会. 2012 (解剖誌.2013;10:379-80.)

b. 一般発表

1. 亥鼻次郎, 千葉太郎 食道静脈瘤の外科的治療. 第 96 回日本消化器病学会. 2011 (日消会誌. 2012;54:46.)
2. 亥鼻次郎, 西千葉三郎, 千葉太郎, 松戸四郎 食道静脈瘤外科的治療における腹水の意義と管理. 第 97 回日本消化器病学会. 2015 (日消会誌. 2015;56:345.)
3. 千葉太郎, 亥鼻次郎 運動初期の換気充進の検討. 第 86 回日本生理学会大会. 2015 (日生会誌.印刷中)

